

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570100459
法人名	有限会社 かねだ
事業所名	南郷グループホームほたる
訪問調査日	2008年 5月 20日
評価確定日	2008年 7月 1日
評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年5月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2570100459
法人名	有限会社 かねだ
事業所名	南郷グループホーム ほたる
所在地	滋賀県大津市南郷1丁目7-21 (電話) 077-534-5508
評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会
所在地	滋賀県野洲市富波乙281-55
訪問調査日	平成20年5月20日

【情報提供票より】(平成20年5月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 6 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	13 人 常勤 9 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 2階建ての, 1階 ~ 2階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000円~66,000円	その他の経費(月額)	元熱水費 15,000円	円
敷金	有() 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無		有() 無
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	50×2 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	1 名	要介護2		10 名	
要介護3	4 名	要介護4		4 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 89 歳	最低	79 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金田医院、なむら歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南郷洗いぎきの近く、関連医療施設、金田医院の敷地内にあるグループホームほたるは、建物の外観も内部もとても明るく、落ち着いた雰囲気ของกลุ่มホームである。徒歩で行ける範囲に銀行、スーパー、郵便局などがあり、自然環境と共に、生活環境にも恵まれた住宅街の中に位置している。個別ケアを目指して、綿密なアセスメントのもと日々気付いた事を細かく記録し、それを介護計画に生かしながら毎日のケアにあたっている。利用者、職員共その表情はとても明るく、「楽しくゆったりと、自分らしくありのままに」という理念が日々の暮らしの中で実践されているように感じた。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、「災害対策」と「居心地良く過ごせる居室の配置」の2項目であった。災害対策については、地域包括支援センターを中心に「結芽ネット」という、災害時の地域の連携態勢をつくる取り組みが始まっており、参加している。昼間の避難訓練は行われているがぜひ夜間も実施して、課題の把握をしてほしい。また居室に関しては、利用者の好みに任されているが、窓の外にブランターを置くなど、居心地の良い環境づくりに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を分担して、職員全員が自己評価に関わるようにした。また、月1回開催されるミーティングの際に、課題を出し合い、みんなで検討し、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では具体的な様々な意見が活発に出ている。認知症や地域包括支援センターについて知りたいと言う意見があり、それぞれについて、担当者が詳しく説明した。また、民生委員からは民生児童委員協議会で認知症について話してほしいという依頼があり、管理者が講演した。民生委員から防災面で、地域の理解や地域の人となじみになることが必要ではないか、その為に地域のふれあいサロンに利用者も参加してはどうか、という意見があったが今のところまだ実現はしていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に、家族と話す機会を作り、意見を聴くようにしているが、あまり苦情はできていない。今年度から、介護相談員を受け入れることになっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、夏祭りなど、地域の行事には参加している。買い物時に出会えば挨拶を交わすし、併設のデイサービスの行事には参加しており、近隣のデイサービス利用者と一緒に楽しむ機会はあるが、今のところ、グループホームの方へ遊びに来ていただけるような関係にはなっていない。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「楽しくゆったりと、自分らしくありのままに・・・共に生き、暮らしの中に喜びと自信を・・・」という理念は、開設当時からのものである。地域の特性を生活の中に取り入れ、利用者が楽しく、その人らしく暮らしていけるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念を下記の3つのケア指針にして、朝夕の申し送り時に読みあげて確認し、日々のケアに取り組んでいる。○利用者のペースに合わせて家庭的な環境づくりを心がける。○利用者の意思を尊重し信頼関係を築くように心がける。○利用者の心の安定を大切にし意欲的な日常生活を送れるように心がける。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の夏祭りや老人センターや地域包括支援センター主催の会合に参加している。地域の2中学校の体験学習も受け入れており、中学生の感性に教えられることも多い。また利用者も子供たちとの触れ合いを楽しまれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、自己評価表を分担して書きいれてもらい、ミーティングで取り上げ職員の意見を聞いている。より良いグループホームにするために、評価を一つの機会と捉えて、取り組んでいる。評価結果についても話し合い、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会関係者や民生委員、利用者家族、併設施設の職員、グループホームの管理者、地域包括職員等からなる運営推進会議では、各方面から具体的な課題が取り上げられ、議論されている。管理者は民生児童委員協議会で認知症について講演した。外部評価の結果やグループホームの生活についても報告されている。	○	自治会関係者から、認知症について知りたいと言われ、話したり、民生委員から、防災についても、地域とのつながりが普段から必要と、ふれ合いサロンへの参加も勧められている。こうした機会にもう一步踏み込んで、グループホームの近隣の住民に、認知症を正しく理解していただけるような取り組みをしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	料金の滞納などについても、どうすれば良いかを折に触れて地域包括支援センターや市に相談している。また、やむなく退去されたかたについても、その後のケアについて連絡を取り合い、協力を依頼している。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回、請求書や領収書を送付する時に、担当者が日ごろの利用者の生活がよく解る写真や手紙を添えて、家族に報告している。職員の異動については、あまり無く、家族も安心して相談出来ているようである。また、家族の訪問時に介護計画を説明し、意見を聞き同意を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時には、担当者に限らず利用者の様子についてお話できるよう、常に状況を把握し、信頼関係を築くことに努めながら、何でも話しやすい雰囲気づくりをこころがけている。家族アンケートでも、苦情の意見は無かった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症という特性に配慮し職員の異動は余り無い。異動があった時は、2、3日の間は見習いのような形でケアに入ってもらう。先輩職員からいろいろと教えてもらいながら、その間に利用者ともなじみになるような体制をとっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、勤務上、都合のつく人が出るようにしている。研修に参加した人は、その後のミーティングで研修内容を報告し、お互いに学びあいながら職員全員の知識、質の向上に役立てている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム協議会の会合等に出席し情報交換をしている。しかし職員は研修に参加した時等に、他の施設の職員と話し合うことはあるが、他のグループホームを研修の形で訪問したことはない。	○	他のグループホームのケアの方法を体験することは、双方の施設のケアのレベルを向上する上で、とても有意義なことであると思うので、ぜひ、相互交流の研修方法を模索し、実現してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームが地域密着の施設になってから、利用される方は近隣の方が多く、併設施設のデイサービス、ショートステイを経て利用に至るため、混乱は少ない。利用前には体験入所や見学をできるだけして頂いている。利用当初は、不安を感じられないように、本人のペースで生活を始めて頂けるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は折に触れ、利用者から学び取ることに喜びを持っている。訪問日には、おやつクッキーづくりを職員と利用者が仲良く相談しながら作っていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時のアセスメントや面接等で、家族から利用者ご本人のことを詳しく聞きだしている。また、利用者の不満や不安を聞きだすようにしており、日々の記録に、気付いた事を書き留め、それを考慮しながら介護計画の見直しをしている。	○	その人らしい生活を支援しようと思えば、現状とともに今までの人生の過程をふりかえってみることも必要である。その人らしさを知るためにもぜひ、センター方式のアセスメントを実施してほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の記録には、職員が気付いた些細なことも含め書きいれている。それらを参考にしながら、1ヶ月に一度あるミーティングで検討し、課題を共通認識しながら担当者を中心に利用者や家族、他の関係者と話し合い、介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3カ月に一度見直すことになっているが、必要に応じて、そのつど見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携態勢をとっており、看護師は週に一度訪問し、必要事項のチェックと助言をしている。また、協力医院の医師は毎日訪問し、利用者はそれを楽しみにして話を交わしている。協力医院以外の専門医受診の場合には、家族とともに、職員も同行し、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院以外の医師を受診する際は、基本的には家族に同行してもらっているが、日ごろの様子を十分に把握できていない家族からの依頼があれば、職員が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケア指針も作成されており、重度化した場合についての話し合いは、家族とそのつど行われている。重度化した場合、まず医師に相談し判断を仰ぎ、其の後、家族、本人の気持ちを尊重し、話し合っていく。ターミナルケアについては、職員の方から見ていきたいという、強い要望が出たことから取り組むことになった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応は、丁寧であった。また、個人情報である記録等は、職員の部屋に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等も、その人のペースを尊重している様子が見えかけた。食後の過ごし方についても、その人の思いのままに過ごされている。利用者の装いもござっぱりとして、その人の持つ雰囲気にもマッチしていた。日々の買い物等も、交替で行けるように柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も利用者の中に入って、食べこぼしなどさりげなく支援しながら、同じ食事を食べていた。ほとんどの方が全部食べておられた。食器はメニューをより引き立てるような器が使われている。また、利用者の家族から届けられた新鮮な季節の食材が、よりいっそう食欲を注いでいるようであった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、それぞれの好みに応じて、ホームの個浴、併設デイサービスの大浴槽を利用。また身体の状況に応じて機械浴も行っている。入浴回数は週2回、嫌がる方はほとんどなく、全員が入浴される。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ユニットで少し雰囲気は違うものの、食事の後片付けも、それとなく役割分担が出来ているのか、手際よく進められていた。他に、針を持ったら今でも職員よりはるかにうまく、その技を生かせる場を持っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	大型のスーパーが歩いて行ける距離のところがあるので、安全が確保できる範囲で一緒に買い物に行っている。なるべく公平に出られるようにしているが、中にはいやと言われる方もいる。月に一度は、デイサービスの車を借りて、全員で出かけることを計画、実現している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊する方がいるので、その方が出かけられる様子がみられる時は玄関にカギをかけている。以前に行方不明になられ警察に届けたこともあったので、それ以来、玄関が開くとチャイムが鳴るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域包括支援センターが、「結芽ネット」という防災についての連携した支援体制を、地域の中に作っていかうとする取り組みをしており、参加している。年1回防災専門の企業に入ってもらって、器具の点検と避難訓練をしている。夜間の避難訓練はまだしたことが無い。	○	昼間の避難訓練に比べ、夜間の避難訓練は想定外のことが起こりやすいものである。実践してみて初めて気づく課題も多くあると思われるので、ぜひ一度実施してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日、24時間の食事量、水分量は一人ひとり細かく記録され、必要量が確保できるように昼夜の引継ぎが行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はいろいろな写真が張り出してあったり、窓からは季節の花がさいているのが見え、とても明るい、居心地良い部屋となっている。2階には、毎月手作りで作られるちぎり絵の壁かけが飾っており、利用者が得意げに製作するときの様子を話されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各人各様の部屋となっている。いずれの部屋も明るく、その人に合わせた配慮があった。ターミナルケアに入っておられる方の部屋では、少しでも穏やかに過ごせたらと、視野に入る窓辺に季節の花が置かれていた。		